

向こう 3 か月の天候の見通し

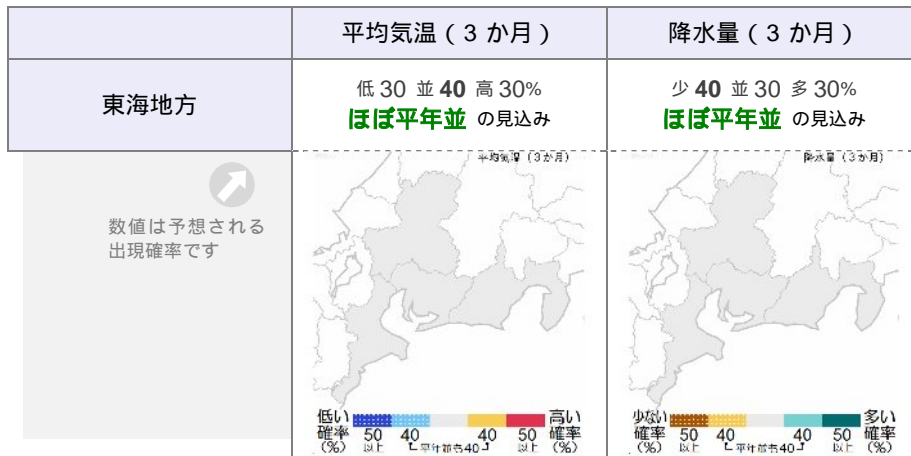
東海地方 10 月～12 月

名古屋地方気象台

予報のポイント

- 向こう 3 か月の気温は、ほぼ平年並の見込みですが、10 月は平年より高く、12 月は平年並か平年より低い見込みです。
- 向こう 3 か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みです。

3 か月の平均気温・降水量

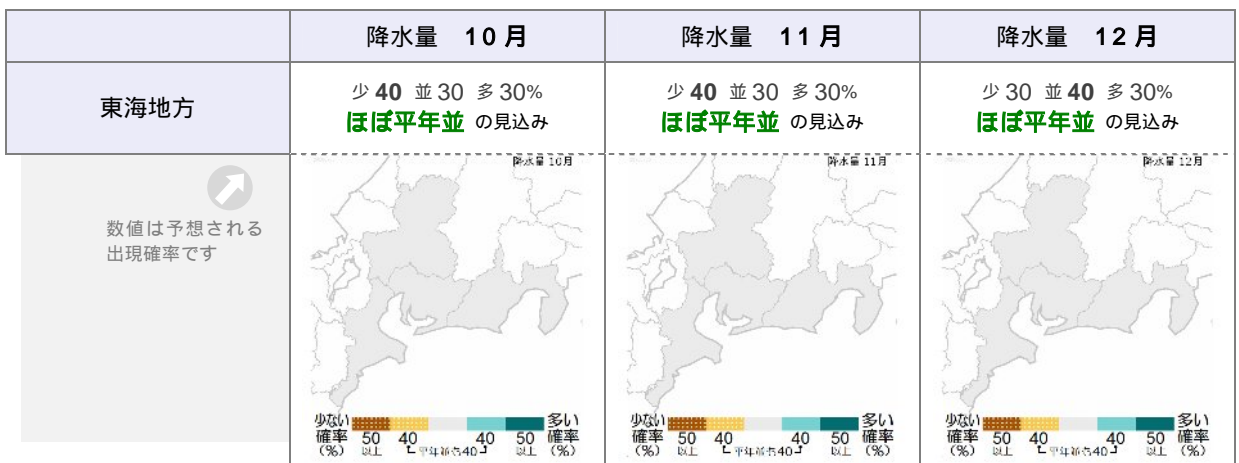
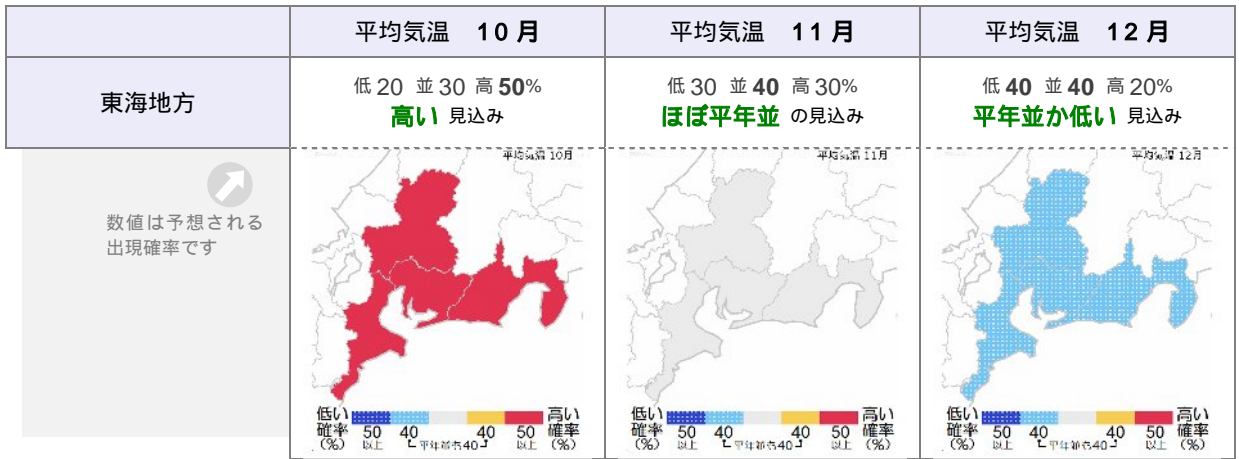


月別の天候

10 月	11 月	12 月
天気は数日の周期で変わ りでしょう。	平年と同様に晴れの日が 多いでしょう。	平年と同様に晴れの日が多 いでしょう。岐阜県山間部 では、平年と同様に曇りや雪 または雨の日が多いでしょう。

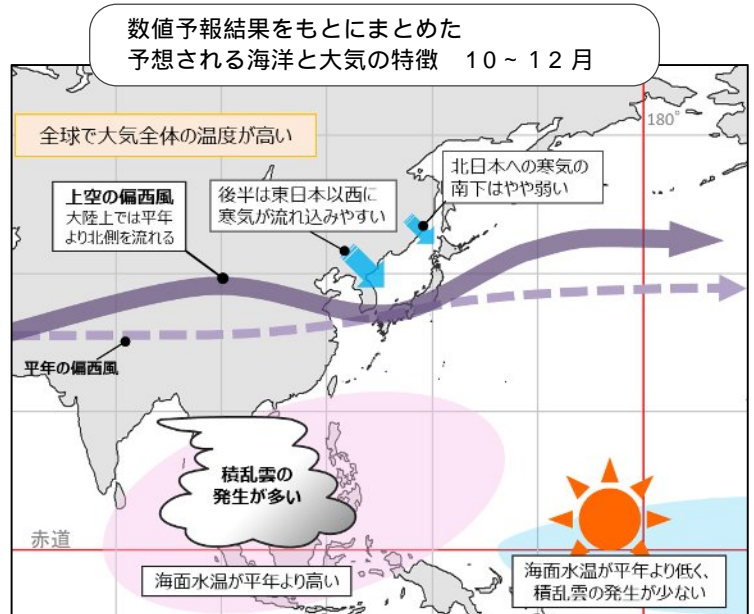
季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。「平年並」がどの程度の値になるのかについては、末尾の「参考データ（平年並の範囲）」をご覧ください。
確率をその大きさに応じ言葉で解説しています。詳しくは末尾の「参考データ（確率予報の解説）」をご覧ください。

月別の平均気温・降水量



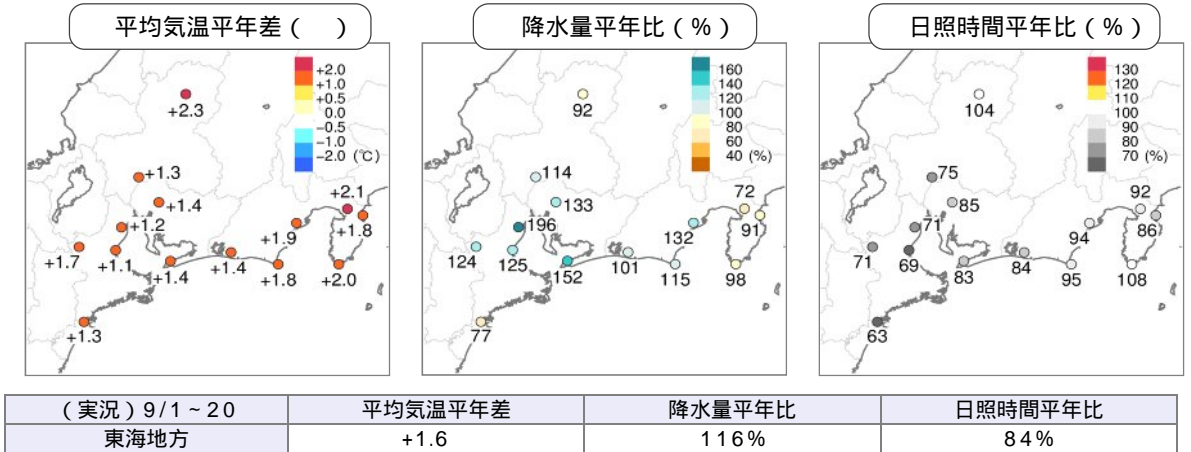
予想される海洋と大気の特徴

- 地球温暖化の影響等により、全球で大気全体の温度が高いでしょう。
- ラニーニャ現象が続く可能性が高く、太平洋の海面水温は、中・東部赤道域では低い一方、西部熱帯域では高いでしょう。
- 積乱雲の発生は、太平洋中・東部で少ない一方、インド洋東部から太平洋西部で多いでしょう。
- これらの影響により、上空の偏西風は、大陸上では平年より北を流れやすく、日本付近では南に蛇行するため、期間の後半は東日本以西に寒気が流れ込みやすい見込みです。
- 一方、北日本では寒気の影響をやや受けにくい見込みです。



今月の天候経過（実況） 9/1～20

高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、上旬は大雨となった所が多くなりました。このため、この期間の降水量は平年を上回り、日照時間は平年を下回りました。また、暖かい空気が流れ込みやすかったため気温は平年を上回り、上旬の中頃にかけては、最高気温が3.5度以上の猛暑日となった所もありました。



参考データ

平年並の範囲

	平均気温 3か月	平均気温 10月	平均気温 11月	平均気温 12月
東海地方	平年差：-0.1～+0.4	平年差：-0.6～+0.6	平年差：-0.2～+0.5	平年差：-0.1～+0.5
名古屋	12.2～12.9	17.4～18.7	12.1～12.8	6.9～7.6

	降水量 3か月	降水量 10月	降水量 11月	降水量 12月
東海地方	平年比：76～109%	平年比：72～113%	平年比：66～113%	平年比：55～136%
名古屋	172.6～283.0mm	85.3～158.7mm	49.1～91.5mm	26.3～58.7mm

「平年並」の範囲は、同時期の過去30年間（1981-2010年）の値から統計的に求めています。30年間のデータの中で「高い（多い）」「平年並」「低い（少ない）」となるデータの数が等分になるように「平年並」の範囲を決めています。すなわち、30年間の30個のデータのうち、値が高い（多い）方から11～20番目となる10個のデータの値の範囲を、おおよそ「平年並」の範囲としています。

晴れ日数と降水日数の平年値

	10月		11月		12月	
	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数
名古屋	18.6日	8.7日	19.5日	6.2日	21.5日	5.5日

「晴れ日数」は「日照時間が日照時間の40%以上」の日数であり、「降水日数」は「日降水量1mm以上」の日数です。この2つは同じ日に起こることがあるため、「晴れ日数」と「降水日数」の両方に数えられる日もあります。

確率予報の解説（ここでは確率予報を次のような言葉で解説しています）

出現確率（低い（少ない）：平年並：高い（多い））	解説
高い（多い）確率が50%以上 (20:40:40)	高い（多い）見込み
平年並の確率が50%以上 (40:30:30) (30:40:30) (30:30:40)	平年並か高い（多い）見込み 平年並の見込み
(40:40:20)	ほぼ平年並の見込み
低い（少ない）確率が50%以上	平年並か低い（少ない）見込み 低い（少ない）見込み